

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 95 号 2023 年秋号

2023 年 12 月 1 日発行

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行
発行責任者：小笠原 智 Tel 080-2259-4415
<http://nadogaya-biotope.com/>

4年ぶりの収穫祭



秋晴れの空の下、4年ぶりとなる収穫祭が行われました。

それは皆が待ち望んでいた復活のつどいです。出席者数 34 名で恒例の餅つきをして、アンコ餅・黄な粉餅・からみ餅にいただきました。また豚汁・焼き芋も料理され、和気あいの収穫祭でした。



収穫祭

収穫祭に寄せて

網永 ひろこ

仰ぎ見た空は青さを増し、トンボの一群が、秋の気配をはらんできた空気を切り取りながら、縦横無尽に飛び去っていく。季節の移ろいを感じながらも、夏の余韻も濃く残っている。最高気温は25度。口々に暑い暑いと言いながら準備に取り掛かる。

薪が勢いよくはぜるかまどでは、水不足や酷暑を乗り越え実ったもち米「満月」が、白く蒸気を上げながら蒸されていく。そしてきれいに洗われ補修された臼や杵が、今か今かと出番を待っているのだ。

この日、晴れやかな空の下、ビオトープの収穫祭が賑やかに幕を開けた。

4年ぶりに開催された収穫祭。新型コロナウイルスが猛威を振るいはじめ、私達の生活は一変した。こうして集まり、日頃の労をねぎらい、笑いあうような行事が一切消えてしまった数年間。ビオトープもこの間は、採れた恵みに個々で静かに感謝をすることになった。

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会に入会して

から3回目の収穫を迎えた私も、今回は初めて収穫祭に参加することができた。話には聞いていたが、待ちに待ったイベントである。

いよいよ蒸しあがったもち米が臼に移され、ベテラン会員の皆さんが手際よくそして力強く餅をついていく。小さな子供たちもしっかりお手伝い。支えられながら杵をふるう。笑い声、掛け声が一層賑やかに響き、ついた餅はきなこやあんこや大根おろしでお化粧をされ、収穫を祝う人々にふるまわれていく。そして、朝早くから準備いただいたおいしい豚汁と共に、私達のおなかをしっかりと満たしてくれたのだった。

1年間手をつくした食物を、こうして多くの人といただくことは、なんと喜びに溢れた気持ちにさせてくれることだろう。楽しくうれしい初めての収穫祭は、沢山の笑顔の中で幕を閉じたのだった。

このような機会を作ってくださった皆様、準備に尽力くださった皆様、そしていつも環境整備や手の回らないことを一手に引き受けてくださっている小笠原会長に、1年間の感謝を改めて申し上げます。ありがとうございました。



初めての収穫祭

河北 俊一

11月とは思えない暑さの中で、地元柏で、ズボズボに埋まりながら土づくり、田植えをし、育てて、稲刈りしたもち米で餅つき体験ができるという4年ぶりの収穫祭を初めて体験しました。

何と言ってもメインは餅つきですが、最初に杵を持った久米副会長の年季の入った力強い餅つきは芸術品級であり、杵がもち米をつく際に出るスポンという音が素晴らしく、また女性の大木さんの反動を生かしたキレのある杵使いにも感心しました。私自身は小学生以来の餅つきで、69歳でありながら男性参加者の中では若手であり、ゴルフでは飛ばし屋といわれてきた腕力もあるので大丈夫と思って臨んだのですが、臼を打たないように用心しすぎたためか、へっぴり腰で手打ちとなってしまう、結果として、力強さもキレもなく、後でビデオを見ましたが、大変情けなくなりました。このまま引き下がるわけにもいきませんので、来年はYouTube等で事前に研究し、リベンジしたいと思っています。

また、つきあがった餅を女性陣が総出で素早くちぎり、きな粉餅、大根おろし餅、あんこかけ餅に仕上げ、またたっぷり具材の入った美味しい豚汁もご用意頂きました。ノンアルコールドリンクは製品作りが上手いのか、楽しさのためなのか、アルコールが入っているのかと錯覚するような美味さを感じながら、各種餅をたらふく頬張り、豚汁も2杯頂きました。和気あいあいと放談し、最後はお土産として収穫し精米したコシヒカリともち米をお土産に頂戴し、「これで家でも自慢ができる」と、

ほくそ笑みながら、まさに実のある収穫祭を楽しむことができました。

末尾ながら、この1年、米作りから、自然環境づくり等々、多々ご指導を頂いた小笠原会長、藤平副会長他各役員の皆様には感謝の言葉しかなく、厚く御礼申し上げます。

4年ぶりの収穫祭

村川 五郎

私たちのビオトープも今年で発足して20年になります。私は設立のほぼ当初からのメンバーになっていますが、このところ脚・腰に障害を抱えていて、皆さんと一緒に作業ができなくなっています。今年も田植え・稲刈り・脱穀とどれにも参加できませんでした。

そんなわけで、収穫祭だけに顔をだすのも何となく後ろめたい気持ちがあったのですが、秋晴れの一日、皆さんと一緒に収穫の喜びを味わいたいと思い、参加させていただきました。

久しぶりに皆さんとお会いして、懐かしい顔も多い反面初対面の方も多く、名戸ヶ谷ビオトープも新戦力が大勢参加いただいていることを嬉しく感じました。

皆さんが忙しく準備に励んでおられる中、私一人何もしないで座っているのは心苦しかったのですが、大勢の懐かしい方々にお会いでき、温かい心遣いを頂き参加してほんとうによかったと思った次第です。

私も初めて作業に参加したときは70歳台初頭でしたが、今は92歳となりいつまで会員で居られるかわかりませんが、何とか生きているうちは名戸ヶ谷ビオトープの発展を陰ながら見守らせて頂くつもりです。

猛暑の中での稲刈りです

台風の襲来はありませんでしたが、出穂前の中干しができないので根張りが弱く、前々日の少し強い風でも倒れました。もち田は良いのですが、うるち田は一部倒伏し刈り取りが大変でした。その上、今年は猛暑続きで1時間も作業すると汗と泥んこで脚を捕られ畔に上がれなくなったり、股下まで埋まってしまい身動きできなくなったり悪戦苦闘もあり

ましたが、多くの会員の参加で無事刈り取りました。名戸小の稲刈り学習はコロナ感染で学級閉鎖が発生、急遽中止になりました。刈り取った稲束ははざがけパイプ棚で天日干しとし、雀除けネットを掛けましたが木道に籾殻がいっぱい落ちていました。（小笠原 智）

（中干し：穂が出る前に田んぼの水を干して根張りを促す作業工程）



案山子の見守り隊です

NHK あさドラの主人公：植物学者「牧野 萬太郎さん」と「さかなくん」です。

脱穀作業に寄せて

秋晴れの10月14日(土)、脱穀作業に参加しました。私にとっては4年ぶりの参加で、今回は足踏み脱穀機を使って2日間にわたる骨の折れる作業でした。しかし、近年電動脱穀機が導入され、ずいぶん効率よく作業が進むことを父から聞いていました。

今回の脱穀作業には、最年少は小学校5年生から、最年長はXX歳までの総勢14名でした。藤平副会長が挨拶と作業の説明を行った後、作業は始まりました。最初に取り組んだのはもち米の脱穀。ハザがけされた稲束を機械脱穀機や足踏み脱穀機にかけました。以前は途中で動作が停止してしまうことがあった機械脱穀機も、小笠原会長の入念な手入れのおかげで一度も止まることなく、非常にスムーズに動作しました。私は主に稲ワラを束ねる

作業に従事しました。機械脱穀機や足踏み脱穀機から次々と出てくる稲ワラを束ねて、それを久米さんや網永さんに手渡しました。皆の協力のもと、約1時間で脱穀が完了し、休憩の時間がやってきました。お茶やスポーツドリンク、スナック菓子とともに、井出さんと久保田さんが持ってきてくれたお稲荷さんや漬物、手作りのお菓子でリフレッシュしました。休憩の後、うるち米の脱穀に取り組みました。参加者は若干減りましたが、ほぼ同じスピードで作業を進め、正午過ぎにはすべての脱穀が完了しました。久しぶりに参加した脱穀作業でしたが、皆で協力して楽しく行うことができ、共に作業した参加者たちに感謝の気持ちを抱き、達成感に満ちたひとときとなりました。(西野 達哉)



月例活動状況のお知らせ（9月から10月まで）

※11月については、例年作業はありません

9月16日（土）

猛暑の中で、当初予定していた Bゾーンの草刈りを変更して「もち田 3、4」の稲刈りを行ないました。残りは「もち田1、もち田2のうるち稲」となり翌17日に行く予定です。

当日は秋の生きもの観察会でしたが、市民の参加はなく、会員向けに松清さんからビオトープの生きものの説明をしてもらいました。終わって皆さん汗だくで、泥を洗い落とし会員手作りのナスの漬物を頂きながら歓談しました。



もち田3、4の稲刈り



松清さんから生きものの説明

10月21日（土）

朝から晴れ上がって爽やかな天気となりました。作業は、はざかけパイプの解体、そして、A、Bゾーン木道脇の草刈りです。パイプの解体を早く終えて、次に稲わらをカッターで切り、各田んぼに撒き肥料となります。多くの会員により手際よく終えました。終了後は、会員の自宅に実った柿を頂きながら歓談しました。
(藤平 三郎)



Bゾーン木道沿いの草刈り



はざかけパイプの解体作業



稲わら切りの散布

12～2月の活動予定

12月●16日：定例活動日（大掃除）

1月●27日：定期総会

12月●24日：しめ縄作り

2月●3日：幹事会

1月●6日：幹事会（総会前会議）

2月●17日：定例活動日（アカガエル卵塊調査）

1月●20日：定例活動日（アカガエル産卵場所作り）

注）詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車

面積：約4,400㎡ 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）